

ガム取り清掃と至福のひと言

NPO法人 環境まちづくりネット 星野照美

年老いても動けるうちは何かしらの形で、社会との関わりを持っていたいと願い、新宿区の生涯現役塾で学んでいたところ、NPO の環境まちづくりネットに誘われ、お友達と一緒に新宿歌舞伎町や新宿駅東口でのガム取り清掃に参加しましたが、無理な時間帯ではないので出来るだけ参加するようにし、今では池袋駅西口や世田谷区の三軒茶屋などへも行き、地元の人達と一緒にガム取り清掃に精をだしています。

このガム取り清掃は立ったままで出来るので、疲れることはありませんし、ガム取りを簡単に出来る補助溶液は、筑波大学の先生と共同で開発したとかで除菌作用を持っているため、安心して作業を進めてゆくことが出来ます。

そのうえ、ガム取り清掃のお手伝いをはじめてからは、身体を動かすので食事は進みますし、体力もついてきたように思います。

一緒に住んでいる娘夫婦も、「お母さんのガム取り清掃は、娘(孫)の躰教育になっているわよ」と言って、私のガム取り清掃を心から支援してくれています。私のささやかな社会奉仕が、可愛い孫娘の躰教育になっていると聞かされたときの嬉しさは、何物にも変えがたい家族の絆の強さを感じさせる至福のひと言でした。

ガム取り清掃と云うと、一般的風潮としては、汚らしい低級な作業と見なし軽蔑しているようですが、むしろ、噛んだガムを無神経に路上に吐き捨てる人こそ、マナーをわきまえない人間として軽蔑されるべきだと思います。

私が、一年以上にもわたってガム取り清掃をつづけられたのは、“孫娘の躰教育になっている”ということもありますが、一緒になってガム取りに取り組んでいる人たちが、それ相応に社会的地位にあった人であったにも拘わらず、皆さんが謙虚であり、お人柄の良い人たちだからです。一言で言えば、皆さんが紳士淑女であるということです。

私は、本当に良い人たちと巡り会えたと誇りに思っておりますし、健康でいる限り、この人たちと一緒に「まち美化」のため、ガム取り清掃に取り組んで行きたいと願っております。

平成22年4月29日